



スカイ・オブ・ラブ(愛, 断了線)

2005(平成17)年10月10日鑑賞<パラダイスクエア>

監督=滕華弢 / 出演=朱孝天 / 梁詠琪 / 佟大偉 / 陶虹 / 劉孜 (ツイン、東京テアトル配給 / 2003年香港映画 / 91分)

……3作目は私のお目当ての『再見～また会う日まで～』(01年)、『ターンレフト ターンライト』(03年)の梁詠琪がF4の朱孝天と共演する『スカイ・オブ・ラブ』。1981年を生きた女子大生と2002年の今を生きた大学生が、無線機を媒介として時空を超えた恋を展開……。もしあなたが、「そんなバカな」と思うてしまうとすれば、そんなあなたの頭はサビついてしまっているからで用心……。素直にそんな架空のラブストーリーに酔い、主人公たちの喜びと悲しみを共有しなければ、映画館に来た意味がないのでは……。私はこんなラブストーリー大好き……。

これは韓流のリメイク版

この映画の基となったのは、キム・ハヌルとユ・ジテの共演で話題を呼んだ韓流ファンタジック・ラブストーリーの『リメンバー・ミー』(01年)。これは日本でも『時の香り～リメンバー・ミー～』(01年)としてリメイクされたとのこと。しかし、私は残念ながらこれは両方とも観ていない。

台湾の人気ユニットであるF4の朱孝天を主役にむかえた『スカイ・オブ・ラブ』は、この韓流ラブストーリーを香港映画界が舞台を上海に移してリメイクしたもの。この手のラブストーリーでは、主演女優を誰がつとめるのがポイントだが、それがこの映画では、私のお目当ての梁詠琪。彼女は『再見～また逢う日まで～』(01年)、『シネマルーム5』321頁)や『ターンレフト ターンライト』(03年)、『シネマルーム6』167頁)で、涙を誘う演技を見せてくれた実力派の美人女優だ。

🎬 本命は先輩……？

梁詠琪^{ジジ・リヨン}扮する大学3年生の顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳が好きなのは先輩の聞濤^{ウエン・タオ トン・ダーウエイ}（修大偉）。詩歌研究会のサークル活動に精を出しているこの先輩に会いに行ったもののうまく切り出せず、顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳が逃げこんだのは無線研究会のサークルの部屋。そこを先輩に見つかったため、とっさに1台の無線機を手にとった顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳は、アマチュア無線が趣味だとワケのわからないおしゃべりをした挙げ句、この無線機を自宅に持ち帰ることに……。この顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳とその本命のお相手聞濤^{ウエン・タオ}との恋のなりゆきが大きなテーマだが、それ以上のこの映画最大のテーマは、時空を超えた恋。そしてその小道具となるのが、今どき珍しい無線機……。

🎬 無線がとりもつ縁は古風だが、おしゃれ……？

先輩への片想いに自宅でボーッととなっていた顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳は、自分の部屋のベランダに立って「皆既月食」の今日、月が隠れていくのを1人じっと見ていた。そんな時、突然音を出したのが無線機。使い方もわからないまま、何とか会話を交わした顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳だが、その相手は偶然にも同じ大学の1年生。無線に興味を示した顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳に対して、明日学校で無線のテキストを手渡すと約束したこの大学生聞家輝^{ウエン・ジャーフエイ}に扮するのが、F4の1人である朱孝天^{ケン・チュウ}だが、彼が住んでいるアパートの広さや家具類を見ると、彼はかなり裕福な家庭のお坊ちゃん……。さらに彼には、蘇亞琴^{スー・ヤーチン}（陶虹^{タオ・ホン}）というれっきとした彼女がいたが、なぜか彼はこの無線の相手に関心が……。

🎬 なぜか最初からスレ違い……

同じ大学に通う2人が決めた約束は、「明日〇〇時に△△の前で」ということだから、まちがうはずのないもの。しかし、ザーザー降りの雨の中、聞家輝^{ウエン・ジャーフエイ}が傘もささずにじっと待っていたのになぜか顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳はやってこなかった。ずぶ濡れ状態でアパートに帰り、やっと通じた無線機で「なぜ来なかったのか」と問いたですものの、「雨なんか降っていない!」「私も風の中、2時間も待っていた!」とどうも話がトンチンカン……。先に頭にきて無線を切ったのは聞家輝^{ウエン・ジャーフエイ}だったが、顔小^{イエン・シャオジャヤー}佳もそのノートに「宇宙人?」と書いたのは当然……。こんな怪奇現象が発生したのは、

ひょっとして皆既月食のせい……？

1981年 vs. 2002年の時空を超えた恋

キツネにつままれたような気持の聞家輝^{ウエン・ジャーフェイ}だが、何度か顔小佳^{イエン・シャオジャー}と無線を交わしているうちに判明したのは、どうも2人は違う時代に生きているらしいということ。
顔小佳^{イエン・シャオジャー}が上海の華東師範大学3年生の今は、1981年。これに対して聞家輝^{ウエン・ジャーフェイ}がこの大学に入学した今は2002年。つまり21年間のタイムラグがあるということだ。
そんなバカな……と思うのが当然だが、そうってしまったのでは、この手のファンタジックなラブストーリーは成立しない。そして、もしアナタの頭がそんな夢の世界を空想できないとしたら、その頭はかなりサビついているから、思い切ってリフレッシュしなければヤバイ……？

さて、そうだとわかると、映画のなかでも聞家輝^{ウエン・ジャーフェイ}が言うように「お金儲けをしたい」と思う人もいるはず……。だって、1981年以降どの株がどのように上がっていくのなんてことは、調べればすぐにわかるのだから、その情報を聞家輝^{ウエン・ジャーフェイ}から顔小佳^{イエン・シャオジャー}に伝えて、顔小佳^{イエン・シャオジャー}がその株を買い占めればボロ儲け……？ もっとも、そんな現実的な話になったのでは、ラブストーリーも何もあったものではないから、即座に顔小佳^{イエン・シャオジャー}は「そんなことには興味はない」と否定したが……。

恋の行方が大問題！

お金儲けの話はどうでもいいことだが、恋の行方は顔小佳^{イエン・シャオジャー}にとって大問題。暗示的なのは顔小佳^{イエン・シャオジャー}の親友の宣^{シュアンシュアン}（劉孜^{リウ・ツー}）が、足を骨折したのに続いて、顔小佳^{イエン・シャオジャー}の大好きな先輩聞濤^{ウエン・タオ}が左腕を骨折したうえ、何と宣^{シュアンシュアン}宣^{シュアンシュアン}と同じ病院に入院したこと。顔小佳^{イエン・シャオジャー}は「お見舞いに来るのが楽でいいわ」などと、ノー天気なことを言っていたが、男と女の仲は何がおこるのかわからないもの……。

面白いのは、骨折した左腕を固めているギプスに好きな人から名前を書いてもらったらケガが早く治るという迷信……。日本ではそんな話は聞いたことがないが、占い好きの上海（？）では、ホントに聞濤^{ウエン・タオ}の左腕のギプスに顔小佳^{イエン・シャオジャー}がサインを……。このエピソードは後になって大きな意味をもってくるから、くれぐれもお見逃しなく……。

■愛や恋も時代とともに変容……？

1981年の上海に生きている顔 小 佳は、女子バレーがやっと世界一になって大喜びしているとはいえ、まだまだそのレベルの中国……。しかし、2002年の上海に生きている聞 家 輝やその彼女の蘇 亞 琴は、物質的には十分豊かになり、モノがあふれている時代の若者。無線上の会話では、聞 家 輝 も 顔 小 佳もお互い率直に何でも語り合える仲。したがって、そこで聞 家 輝 が 顔 小 佳に対して2002年の中国の状況を語って聞かせるシーンは興味深い。20歳そこそこの大学生にしてはしっかりした分析だと感心するのは、物質的に豊かになった反面、人と人との結びつきが薄まり、愛や恋についてもそのつながりが大きく変容しているという聞 家 輝の分析。そしてこれに対する、顔 小 佳の「愛とは自分を満足させることだった」というセリフも、聞 濤を想う気持の葛藤から生まれた実感だっただけに胸をうつもの。時空を超えた恋の行方も焦点だが、この若い2人が無線上で交わす恋愛論も興味深い……。

■スー・ヤーチンの積極的アプローチは報われるのか？

顔 小 佳の陰に隠れているが、2002年の現代中国を象徴する若い女性が蘇 亞 琴。聞 家 輝の机には蘇 亞 琴との2ショットの写真が飾られているから、本来2人はラブラブのはず。しかし、タバコを吸ったり酔っぱらったり、さらには、いつもうるさくまわりついてくる蘇 亞 琴を聞 家 輝は時々、うっとうしく思っている様子。そんな状況下において、無線上の中の新しい彼女が現れたから、ますます聞 家 輝は蘇 亞 琴に対してつけんどんに……。しかし、それに負けず、あくまで蘇 亞 琴は、積極的にアプローチ……。ところが、これは明らかに戦術的な誤り！ すなわち、逃げる者を追っていけば相手はますます逃げていくことになるのは、はるか昔から明らかな、恋の大原則……。さて、こんな2002年の今を生きる2人の恋の行方はどうなるのか……。それも、この映画のもう1つの焦点だ。

2005(平成17)年10月12日記